

難病患者の就労支援



神戸公共職業安定所
難病患者就職サポーター

どのような相談が多いのか

- ➡ 治療しながら働きたいが何からはじめればよいのか
- ➡ 難病があることを会社に伝えたほうがよいのか
- ➡ 病気のことを会社に伝えたいが、どのように伝えたらよいのか
- ➡ 難病患者の就労を支援する制度はあるのか
- ➡ 他の難病のある方がどのような働き方で、どのような仕事についているのか

難病相談支援センターと連携しながら支援します

- ▶ 病状、通院状況に配慮した働き方を一緒に探します
- ▶ 病状を整理し、病気の伝え方を一緒に考えます
- ▶ 難病患者専用の求人はありませんが、一般求人や障害者用求人から探していきます
- ▶ 就職した方が安心して長く働けるようにサポートします



治療や疾患管理と仕事を両立させる

- ➡ 無理なく続けられる仕事を選ぶこと
- ➡ 通院や休憩などの業務管理について職場の理解と配慮を得ること
- ➡ 自己管理と職場での対処スキルを身につけること



仕事の負荷と回復のバランスが取れる仕事

- 身体的に無理がない
- 休憩が比較的自由に取りやすい
- 疲労回復が十分にできる勤務時間・休日
- 通院のための業務調整が可能な仕事

具体的にはデスクワークや短時間勤務の仕事に多くみられます

仕事探しの準備

- ▶ 病状の安定に必要な医療的条件を主治医に確認すること
仕事内容や働き方に無理があると体調が崩れやすくなります
- ▶ 自分が就こうと考えている仕事内容や働き方、勤務時間や休日などを伝え無理なく働けるかどうか相談すること



持病の開示・非開示

- 応募の際ハローワークから伝える
- 応募書類に記載する
- 面接時に伝える

難病のある方の就職事例

30代 女性

シェーグレン症候群 + 線維筋痛症 + てんかん

- ➡ 介護職経験を活かし就職希望
- ➡ 介護職員初任者研修 資格取得
- ➡ 持病を開示し就職活動
- ➡ 開示することで困難もあったが、理解ある事業所へ採用される

難病のある方の就職事例

40代 男性 ベーチェット病

- 設備関係の職人として力仕事に就いていた
- 関節痛があり力仕事の継続が困難となり退職
- 雇用保険を受給しながら経験のない仕事に就くための職業訓練受講を勧める
- ポリテクセンター「生産管理 I Tサポート」受講を決める
- 訓練中も受診は必須 訓練校で相談し半日出席を認めてもらう
- ポリテクセンターでの訓練卒業前に訓練校の紹介で就職が決まる

難病のある方の就職事例

40代 男性 ミトコンドリア病

- ミトコンドリア病のため難聴 静かな環境でゆっくり話せば会話は可能
- 障害者の指導員として勤務していたが現場でのコミュニケーションが困難で退職となる
- 好きなこと、得意なこと、趣味の話から手先が器用、模型が趣味とわかる
- 義歯の模型製作求人を提案 履歴書の書き方をアドバイス
- 紹介時に難病のため難聴と伝え面接 採用となる

難病のある方の就職事例

60代 女性 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症

- ➡ 障害者施設で生活支援の仕事に従事 准看護師資格あり
- ➡ 難病がわかり半年間入院、その後自宅療養
- ➡ 右足に装具 1本杖使用
- ➡ 今後は在宅勤務 内職を希望 PC経験なし
- ➡ 内職の求人はなく、食品工場での流れ作業を希望される
- ➡ 准看護師資格を活かせる障害者生活介護施設の健康管理を提案 採用となる

難病のある方の就職事例

40代 女性 皮膚筋炎

- 介護事業所で介護事務のパート勤務
- 会社の都合で正社員と同等の勤務時間、仕事量となる
- 体力的、精神的な負担が大きくなり転職を検討
- メンタルが低下し退職となる
- 悩みを傾聴し励ます
- 本人の希望に沿う求人を提案 難病を開示し採用となる



就職が決まった方たち

- ・ご自身のできること
- ・できないこと
- ・配慮してほしいこと

などが整理できている方が多くみられます

無理をせず継続できる仕事は何か

自己理解・仕事理解を深めることが大切です



ご静聴ありがとうございました
神戸公共職業安定所
難病患者就職サポーター